

「夢が叶うまで、あと少し。」

「自分で設計した家に住みたい。」 高校生の時描いた夢が、
今まさに叶おうとしている。

建築系の専門学校を卒業して、建築の世界に入ってもうすぐ8年経ちます。振り返ればいろいろなことを学びました。建築の技術者としての知識や、お客様や現場で仕事をして頂いている職人さん方からは、「ひとりの人」として育てて頂きました。自分の力だけではなく、周りの方々に支えて頂いたからこそ今の自分がある、と思つています。仕事を通して辛い事もたくさんありましたが、夢を叶えるために頑張ってきました。

去年の7月から、土地を探し始めました。近隣の方々とは、僕が小さな頃から仲良くして頂いています。みなさん家族同然です。

「家を建てるのなら地元。」それは譲れません。近所で「売土地」の看板を見ると、問い合わせ条件を聞きますが、金額的に、そして広さ的にピッタリの物件がなかなかありません。

「もう少し待った方がいいのかも。。。」少し諦めかけた9月、今家を建てている物件にめぐりあいました。予算、広さともに納得できる物件です。諦めずに探して良かったです。

ココと決まれば話はスムーズに流れました。

間取りはもちろん自分で図面を描きました。借り入れできる予算との兼ね合いもあるのですが、少しでも坪数が少ない中でも住みやすい家にならなと、何度も描き直しました。僕のプランに対して嫁さんは、「二階にトイレが欲しい。」とか、「キッチン絶対、対面式!」「たくさん仕舞える食器棚。」などなど。

でも、ふたりで住む家ですから嫁さんの意見は大切です。将来のことを考え、二階に子供部屋をふたつ作りました。4・5帖の畳コーナーは、お客様に泊まっていたときは客間として、普段はリビングの続き間として、当分は僕がゴロゴロするスペースになりそうです。

今住んでいるアパートのお風呂は狭く、湯船に浸かってゆつくりできません。ゆつたりお風呂に入りながらテレビを観たかったので、ユニットバスにテレビを付けました。そこは僕のこだわりです。

33坪という広さですが、妻ながら上手な間取りができたと思っています。白黒白費でしょうか??

仕事を通して、たくさん木の種類のを見てきました。家が完成すると隠れてしまう部分ですが、柱や梁、土台など、適材適所という言葉があります。木材もまさにその通りです。強さや、反りや割れが無い。という理由で柱や梁は集成材を、土台は床下の大切な部分なので、水に強いヒノキを使いました。ヒノキは湿気に強いからです。ヒノキ風呂があることも願います。ずっと住む家ですから、地震や天災にも強い頑丈な家にするために、構造計算をして、使う木材の種類も吟味しました。

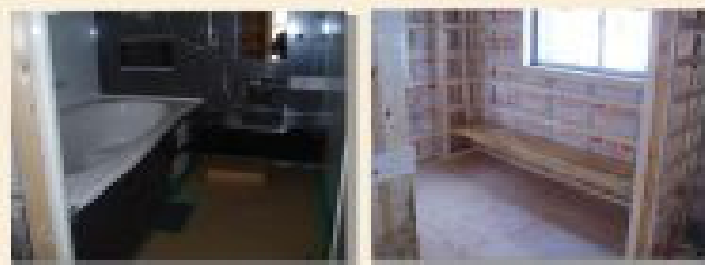
毎日現場へ行き、大工さんと一緒に仕事をしたり、納まりを考えたりしながら、仕事が進むのを見て楽しく仕事をしています。完成は5月です。5月末の引っ越しがとて待ち遠しいです。

夢が叶うまであと少し。日々頑張りたいと思います。

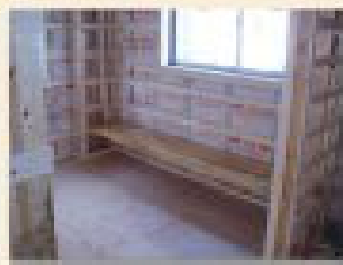
田嶋 哲士



去年9月26日に、土地を契約しました。



こだわりのユニットバス、テレビ、早く朝早い母あ。



テレビ台ができました!



上棟に先立ち、土台を敷きました。もちろんヒノキ!

今までの6カ月間の
家づくりの歩み



屋根を葺きました。



中は居住、工事が進行中です。



上棟には使も参加しました。



上棟当日、夕方までに外壁が完了しました。